



諸遊壊司議員

合併後4年間の評価と課題は

一定の基盤は作れた

問 後四ヶ月余りで、町長も議員も再度町民の信任を受ける時期が来た。

お互い各々が打ち出したマニフェスト（町民との約束）をもう一度検証し、町民の代表としての責務を果たさなければならぬと思う。

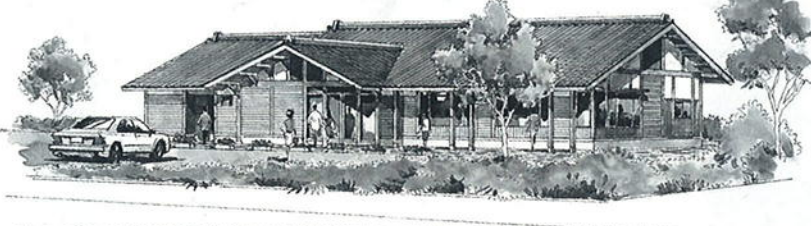
- (1) 財政状況と事業内容は、
- (2) 来春オープン予定の、観光交流センターの名称（愛称）と目玉は、
- (3) 旧三町が合併したからこそ出来る健康づくりの施設を。

答（山口町長）

(1) 町民の皆さんに無理を言い理解いただきながら行財政改革に取り組んだため、財政状況も安定した見通しを立てることが出来るようになった。またケーブルテレビ・高速情報基盤整備・就学前教育の充実・校舎耐震改修・企業の誘致など一定の基盤を作ることが出来た。

(2) 観光交流センターという名称は少々堅いので、内部では「大山恵みの里」という案もあるが、広く町民の声も聞きたい。各観光情報とかイベント情報も発信するが、大山にこだわった物を置く事により魅力を一層高める。

(3) 住民の皆さんが健康に暮らしていただけるため、温水プールを町民の声を聞きながら前向きに調査検討する。



来春オープン予定の交流センター完成予想図



遠藤幸子議員

在宅介護への医療機関の関わりは

協議会で検討中

問 在宅医療・在宅ケアの取り組みをどのように考えているか。在宅で介護をするのには、人手と安心して相談できる医療機関が必要不可欠。町内の診療所は、どのように関わっていくのか。

答（山口町長） 「保健・医療・福祉連携体制づくり協議会」において、在宅医療・介護の現場での課題や、対応策を検討中である。家庭医を持つことの大切さ、家庭医と他の医療機関との連携のあり方も、重要な視点として議論している。

地域の中で、自分が信頼できる、かかりつけのお医者さんを作っておくことは非常に重要である。診療所を含む町内の医療機関に、その役割を果たしていただき、その中で



保健・医療・福祉連携体制づくり協議会

信頼関係を築いていくことが大切。医療機関・福祉施設・介護施設が、どのように連携を取り、お互いの役割を担い合えば良いか、この大きな課題について、もう少し長い時間をかけて、研究・検討が必要と考えている。今年度は、大まかな方向性を目標に、作業を進めている。